

入研募集

平成 24 年度の後期専門研修医を随時募集しています。

興味をお持ちの先生は、是非ご遠慮なくお問い合わせください。

当研究室は**脳血管内科**を標榜し、**診療、教育、研究**を行っています。明治38年に開設された九州大学医学部第二内科は、大学院重点化に伴い九州大学大学院医学研究院病態機能内科学と名称が変わりました。当研究室は病態機能内科学（旧第二内科）の8つの研究室の一つで、研究は病態機能内科学において行い、診療は学内外で脳血管内科として行っています。

当科における脳卒中の臨床、研究は、第二内科第4代教授故勝木司馬之助先生の時代にはじまり50年以上の長い歴史と伝統を誇ります。山口武典先生（国立循環器病センター名誉総長／日本脳卒中協会理事長）、故藤島正敏先生（第二内科第6代教授）、緒方絢先生（元国立循環器病センター集団検診部長）がおられた**現在の研究室の形となってから40年**に及びます。その歴史の中で国立循環器病研究センターと連携し、**100人を越える専門医を輩出**してきました。培われてきた伝統は、多くの先達が脳血管障害と闘い、日本の脳卒中診療、脳卒中医学をリードしてきた証とも言えます。近年、脳血管診療は劇的な進化を遂げています。わが国において、内科全般の知識や、脳/脳血管の高い専門的知識を持つにとどまらず、未来に続く新しい脳血管診療、治療を創っていく人材が必要とされています。

脳血管専門研修は福岡県内にある国内有数の脳卒中学会認定研究教育病院、国立循環器病研究センターにおいて、主に脳血管疾患、脳疾患診療を行います。関連施設の専門医師は、皆さんの将来を真剣に考えて、熱意を持って指導しています。最高レベルの診療技術を有するこれらの施設で専門研修をしていくことで、血管病に関わる内科全般の知識、診療手技はもちろん、さらに高度に専門的な技術や知識を身につけることができます。また、全国の脳卒中診療専門施設と連携して、次世代の脳卒中医療に対応する手技も積めます。

医師は人が相手の仕事であり、患者さん、ご家族の思いを感じ、手を携えてその気持ちに応えることのできる医師になって欲しいと願っています。臓器だけを見るのではなく、きちんと患者さんを診て、全人的な医療ができる医師の育成を目指しています。脳卒中診療を行うためには、全身管理が的確にできることが基本となります。したがって、内科診療全般からはじまり、救急診療、急性期脳卒中診療・リハビリテーション、全身性合併症・リスクの管理に至るまで、幅広く経験し、勉強をしてもらいます。病態機能内科では、学内においては腎臓、透析、循環器、高血圧、老年、神経、救急、糖尿病、消化器内視鏡、消化器病、胃腸科など、極めて多岐にわたる専門医、指導医が指導を行い、専門性の高い内科医の育成を行っています。当研究室の専門医研修の過程において、脳卒中専門医のみならず、老年専門医、救急専門医、神経専門医、脳血管内治療専門医、循環器専門医、リハビリテーション専門医などを身につけることができます。今後は交流型の後期研修制度を利用して、さらに幅広く学べる機会を提供したいと思います。

研究室は自由、闊達で、医局員は理念を持って力を合わせ、診療、研究、教育を精力的に行っています。さらに、研究室や医局の枠を飛び越えて、国内や国外の第一線で学び、多くの医療人と接することで、医師として、人間としての器は広がっていきます。数多くの先輩達が、医療、研究、教育、行政などさまざまな分野の第一線で活躍しています。将来は、わが国の脳卒中医療、脳卒中医学を牽引していくリーダーとなって、社会にとって不可欠な人材になって欲しいと思います。

基礎から臨床まで世界最高水準の脳、血管研究を行っています。脳卒中診療に革新を起こす診断法や治療法の開発を目指しています。患者さんのためになる、まだ誰もやっていない新しいことを考え、取り組んで欲しいと思います。研究生活をする中で、日々の臨床の中でも、常に疑問を持ち、本質を見極める姿勢が培われ、その積み重ねが良い臨床医を作ります。高度な基礎研究にも取り組んで、Physician Scientistに育って欲しいと思います。未開の荒野を切り拓いていくチャレンジ精神を持った若人を待っています。

若い諸君は無限の可能性を秘めています。自分で自分の限界を決めないように

お願いしたいと思っています。国民病とも言える脳血管疾患の診療体制は不十分であり、今皆さんの力が社会から強く求められ、国民はそれを必要としています。是非とも期待に応えてください。当科では、きっと人生の師と言えるような素晴らしい人との出会いがあり、やり甲斐を持って働ける環境が待っています。先輩はさまざまなネットワークを形成しており、活躍の機会はますます広がっています。皆さんのそれぞれの長所や能力を最大限に生かせるように、将来を考えさせていただきたいと思います。医学、医療の将来を一緒に拓いてくれる先生の参加を心からお待ちしています。

当科の特徴は以下のサイトもご参照ください。

<http://www.med.kyushu-u.ac.jp/stroke/kenshu1.html>